

第2次提言の骨子(素案)

1. はじめに(提言の背景など)

2. 提言の基本的な考え方

- (1) これまでの下水道のインフラマネジメントの反省点
- (2) 反省を踏まえた基本的な方針転換の考え方

3. 今後の下水道等のインフラマネジメントのあり方

- (1) 全国特別重点調査に基づく対策の確実な実施
- (2) 上下水道の点検等のあり方
- (3) 道路管理者をはじめとする他の管理者とのリスク情報の共有等のあり方
- (4) 上下水道の再構築等のあり方

4. 下水道等のインフラマネジメントを推進する仕組みのあり方

- (1) インフラマネジメントを推進する体制や関係機関の連携のあり方
- (2) DX・技術開発の推進のあり方
- (3) 国などによる技術的・財政的支援のあり方
- (4) 国民などの意識の醸成のあり方

5. おわりに(第3次提言に向けた検討課題など)

「2. 提言の基本的な考え方」に盛り込むべき事項(素案)

(1) これまでの下水道のインフラマネジメントの反省点

- ① これまで、下水道の管理には、把握し得る最大限の知見や技術をもって関係者が最善を尽くしてきたが、地下空間は把握し尽くせていない要素があり、点検結果等に不確実性があることを十分に認識していたであろうか？
- ② 上記のような問題意識を国民に認識してもらう努力をしてきたか？

(2) 反省を踏まえた基本的な方針転換の考え方

- ① 地下空間は複雑であり、地下インフラの点検結果等には不確実性を伴わざるを得ないことを前提としたインフラマネジメントに転換すべきではないか？
- ② 上下水道管路の点検等は、「重大な社会的影響を回避する」ことを新たな観点とすべきではないか？ また、限られた人員・予算で確実に実行する観点からメリハリをつけるべきではないか？
- ③ 道路管理者と他の地下インフラ管理者がリスク情報を共有すべきではないか？
- ④ 管路施設の維持・修繕・改築等を行いやすくする観点から、構造等のあり方を見直すべきではないか？
- ⑤ 行政・事業者に加え、学術団体など多様な主体の「総力戦」での実施体制のもとで、人員・予算・技術のリソースを投入するとともに、上下水道のインフラマネジメントに対する国民などの理解を醸成すべきではないか？